

この曲を このメンバーで歌えること

記念式典に向けて、全校音楽で最後の歌練習がありました（7日朝）。「今日、精一杯の力で歌うことができた人」と中島先生が子どもたちに尋ねると、ほぼ全員が拳手をしました。次いで「精一杯歌えなかった人」という問いに数名が拳手をしました。わたしは、ギャラリー席にいたので全校児童の歌う姿がよく見えました。ですので、後半に手を上げた子どもさんが決していい加減な歌い方をしていたわけではないことはよく分かっています。むしろ、「まだ一層の力を発揮できるはずの自分」を感じているからこそ、の拳手であることを感じました。

「できた」という子の拳手もちろん立派です。そして、「できなかった」という拳手は、むしろ勇気が必要で、自分のさらなる努力を喚起してい



て、これもまた立派な子どもの姿であると思いました。どこで手を挙げても受け入れられるという人間関係あってこそその麻績小学校の子ども姿。とてもうれしく、またこの50周年の機会は、何より子どもたちにとって大きな節目としての意味があることが感じられました。

中島先生はおわりに、「この曲『ふるさとの四季』を、このメンバーで歌えることを心に残しましょう」と子どもたちに語られました。

明日の『麻績村立麻績小学校50周年式典』は、とても大切な式です。そして一番大切なことは、今の麻績小学校『メンバー』の心がひとつであることを感じる表現ができること、だとわたしも考えます。

クラブ活動 まとめ

子どもたちが楽しみにしている「クラブ活動」も残すところ2回（次回は最終）となりました。まとめを迎えようとしています。作品を仕上げたり、クラブ発表の方法を考えたりする時期です。また、3年生の皆さんは来年度に向けて各クラブの見学をしました。時間を区切って、すべてのクラブを訪問していました。どのクラブもとても魅力的に映るのでしょうか。しっかりメ

モを取ったり、上級生のプレーに歓声をあげたりと、3年生は皆、目がきらきら輝いていました。中には、「来年、〇〇クラブに入るんだ」と既に心を決めて話してくれた子どもさんもありました。



周年行事にかかわる麻績小学校の歴史に目を向けていきましたら、かつて一輪車が寄贈された頃に、『一輪車クラブ』があったことが分かりました。今も、中庭で夢中になって練習をしている低学年の子どもさん、見事に乗りこ

なして2人、3人、4人となって難しい技を披露してくれる中学年の子どもさんの姿があります。『一輪車クラブ』なんてできたらいいな、と思うのですが、有志の子どもさんが集まらなければどうにもなりませんね、こればかりは（ほんの思いつき）。

『麻績村文化祭』盛大に開催

2日（土）から、村の文化祭が開催され、交流センターに子どもたちの作品を展示していただきました。1年生から6年生までの絵画・書道作品をまとめて鑑賞させてもらえる機会でした。生き生きとした低学年の皆さんの作品が、高学年に向けて少しずつ高まっていく過程が感じられて、とてもよかったです。さらに筑北中学校の皆さんの作品を見せていただくと、



「さすが中学生」と感じる作品にあこがれも抱きました。懐かしい卒業生の皆さんが、こつこつ作品制作に取り組んでいる姿が思い浮かびました。さらに、地域で子どもたちが機会をいただいて制作した作品を鑑賞することもできて、学校とはまた違う表現をさせていただいていることもありがたく思いました。主催していただき、このような機会をいただいた村公民館をはじめ関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

